産学連携によるグローバル人材育成

――経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラムの効果

上智大学経済学部長・教授
網倉久永（あみくら　ひさなが）

上智大学では、2012年度秋学期から、経団連と共同で実践型講義を開講している。グローバル人材育成のために、他大学にも展開できるような「モデル・カリキュラム」を経団連と上智大学が共同で開発・実施してきた。

カリキュラムでは、グローバルなビジネス環境で必要とされるスキルやマインドセットを大学生に把握してもらい、その涵養に向けた取り組みを促すことを目標としている。その目標に向けて、狙いの異なる2科目をラインアップしている。「導入講義」として位置付けられている「グローバル・ビジネスの現状と課題」（以下「現状と課題」）と、「本講義」となる「グローバル・ビジネスのフロンティア」（以下「フロンティア」）である。

グローバル・ビジネスの現状と課題

「現状と課題」は、学部2・3年生を受講対象として、企業が取り組んでいるグローバル・ビジネスの多様な実態を広く知ってもらうことを主な狙いとしている。実務担当者による講義を通じて、各社のグローバル展開の理念、現状、直面している課題等を学生に把握してもらう。講義内容は業種や企業によって様々で、学生がグローバルなビジネスが多様かつ複雑であることを実感して、卒業後のキャリアを考えるための良い機会となっている。

講義終了時には、各企業から毎回課題が提示され、学生は翌週講義までに1千文字程度のレポートを提出する。課題のテーマも多様であるが「当社が次に展開すべき国・地域を選定せよ」「あなたが将来グローバル人材となるために学生時代に取り組むことは」など、深い考察を要求する点は共通している。当初は学生向けに手心を加えた課題設定も見られたが、学生レポートが「予想していたものより高水準であった」との声が相次いだ。近年では、手加減せずに「貴社の若手・中堅社員に真剣に考えてもらいたいテーマ」を課題として設定してもらえるよう依頼している。

3社の講義が終了したところで、グループ討議を実施して、課題について振り返り、理解を深める。グループ討議には、各社の社員がファシリテーターとして参加し、学生からの質問に回答するとともに、さらなる検討のためのアドバイスが提供される。

「現状と課題」では、参加企業の協力によって、ビジネスの最前線の動向を学び、そこで活躍する企業人と直接交流することで、グローバル人材として必要とされる心構えや能力について、大学生に知ってもらう機会を提供している。

グローバル・ビジネスのフロンティア

「現状と課題」では「グローバル・ビジネスの実態を知ること」に重点が置かれているのに対して、本講義である「フロンティア」では「課題解決プロセスを体験すること」を目指している。伝統的な座学形式の授業とは異なり、学生の主体的参加が不可欠な「課題解決型」講義である。

「フロンティア」では、協力企業が実際に直面しているビジネス上の課題の紹介を受けて、学生グループが1学期をかけて調査・分析を行い、学期末に成果のプレゼンテーションを行う。

課題内容はバラエティーに富んでいるものの、「ASEAN諸国の資本市場および個人投資家の動向を踏まえて、新しい金融ビジネスの事業プランを提案しなさい」など、高度な専門知識や深い考察が要求されるものとなっている。学生は、独自に文献・資料調査を行うとともに、協力企業を訪問してインタビュー調査や実地見学を行うことで、グローバル・ビジネスの最前線を直接体験する。

学期半ばには中間報告会が開催され、グループ討議の進捗状況や最終発表に向けた取り組みについて議論する。新型コロナ感染予防のため、近年では中間報告会もオンラインで開催しているが、以前は1泊2日の合宿形式で行っていた。合宿には協力企業の若手社員に参加してもらっている。若手社員は、学生グループの「応援団」として、取り組みの成果をより魅力的にするために熱心にアドバイスをして下さるだけでなく、公式プログラム終了後にも、夜遅くまで学生達との「よもやま話」に付き合って下さっていた。夕食後のリラックスした雰囲気の中で、職業人として日々感じていること、これから社会に出て行く学生へのアドバイスなど、他では決して得られない貴重な体験談に接する場となっていた。

課題解決というアウトプットに重点を置いた「フロンティア」では、分析・企画・立案などの論理的な思考・表現能力を養うだけでなく、チームの一員として仕事を進めていくために不可欠な対人能力を養う機会を提供している。学生達の「気付き」や「学び」を導くためには、現地見学、中間発表・最終報告の場での討議といった、実務家との直接的な接点が決定的に重要である。実務家との相互作用は、大学だけでは決して提供できないもので、産学連携によって初めて、貴重な学びの機会を提供することが可能となった。

幸いなことに、両講義とも、受講学生だけでなく協力企業からも好意的に評価されている。最後に、これらの講義に参加した卒業生からの声を紹介したい。「企業の方の意見を聞きながら、突き詰めて深く考えられる機会だった。学生同士だけでなく、学外の人にとっても納得感のある発表とは何かを考えさせられた」（2016年卒：都市銀行勤務）。「社会経験を積むにつれ、例えば外国人と仕事をする際の進め方や文化の違いなど、学生時代にはイメージできなかったことを、身をもって実感する機会が増えてきた。連携講義で課題に取り組んだ経験は、現在の仕事につながっている。講義で取り組んだ課題について、今の立場で、当時のメンバーと改めてディスカッションする機会を持てたらと考えている」（2017年卒：メーカー勤務）。

図表　モデル・カリキュラム：講義の概要

科目	位置付け	受講対象	開講期	主目的	授業構成
グローバル・ビジネスの現状と課題	導入講義	全学部 2・3年生	秋学期	グルーバル・ビジネスの多様な実態を知る	実務家講義 講義内容に即した課題レポート グループ討議 課題レポートの振り返り グローバル人材のあり方の検討 グループ発表 グローバル人材のあり方を提言
グローバル・ビジネスのフロンティア	本講義	全学部 3・4年生	春学期	グローバル・ビジネスの実際の課題に対して解決策を提示する	実務家講義（課題設定） グループ討議 調査・分析 協力企業訪問 インタビュー・実地見学 中間発表 若手社員との討議 最終報告 課題に対する提言